



独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター広報誌

2024  
秋

# はらじゆくかわら版



＜新外来紹介＞ 薬剤師外来が始まります！

「紅葉ドライブ」 広報部職員 撮影



## 外来紹介



### 薬剤師外来が始まります!

～より安全で効果的ながん治療を目指して～

副薬剤部長 小井土 啓一

薬剤師といえば、薬を取りそろえるイメージがまだまだ強いと思います。しかし、薬や治療について患者さんに直接お会いし、お話をさせていただくことも重要な仕事です。これまでは、入院で手術を予定されている患者さん（PCC）と入院され治療を行っている患者さんが主な対象でしたが、このたび、一部の外来患者さんを対象に面談させていただく「薬剤師外来」を開設することとなりました。当面のあいだは「乳腺外科で注射・点滴による抗がん薬の治療を受けられる患者さん」が対象となります。

抗がん薬による治療は、注射や点滴は毎日ではなく、週に1回だったり月に1回だったりしますが、薬の副作用は何日か経ってご自宅で過ごされているときに症状やその予兆が現れたりします。これらをお知らせいただくために現在も問診票をご記入いただいておりますが、薬剤師外来では、それに加えて、直接、薬剤師が、お話を聞いたり、場合によっては直接（手や足を）観察させていただいたりします。

薬剤師による面談は主治医の診察前に実施させていただきます。対象となる患者さんには、当日の受付票に「薬剤師外来」が印刷されますので、採血後、外来受付Aにお越しいただき、受付で問診票をご提出ください。A-21診察室よりお呼びいたします。面談では前回の治療後に起きた体調の変化や気になる症状について遠慮なくお話しください。それらの情報を医師に伝えることで、より適切な治療方針の決定につなげることができます。

「そんなことがなんの役に立つのだ？私はちゃんと主治医の先生にお伝えしているぞ！」と思ったかもしれませんが（そう思うのが普通ですね）、薬剤師外来を実施すると、抗がん薬の副作用軽減につながる事がわかって（やはりつい言い忘れてしまうこととか、あるのかもしれませんが）、今年の診療報酬改定において「がん薬物療法体制充実加算」という名称で認められたのです。

さらに、必要があればかかりつけ薬局とも連携し、日常生活における体調管理や服薬管理について地域全体でサポートする体制を整えていきます。横浜医療センターは、地域の皆様により質の高い医療を提供できるよう、今後も様々な取り組みを進めてまいります。患者さんやご家族の皆様にも、より安心して治療を受けていただけるよう、医療スタッフ一同、努めてまいります。



YMC NEWS

「とつか原宿ふれあい祭り」に参加しました

10月27日（日）に行われた『とつか原宿ふれあい祭り』に、当院附属看護学校と一緒に参加しました。当日は雨天中止ということで、お天気が心配されましたが午前中は日差しがあり、少し汗ばむ陽気でした。

このイベントは「原宿商店街松栄会」の主催で行われています。

当院はマイナ保険証と産科病棟、がん診療連携拠点病院のご案内、看護学校は学校紹介や看護衣試着、聴診器体験などについてブースを出展しました。

ブースには多くの地域の方々にお立ち寄りいただき、お子さんを当院で出産された方や、数年前に手術を受けた方が元気な姿を見せてくださいました。受診体制等に関するご意見などもあり、普段はなかなか聞けない貴重な時間となりました。



またマイナンバーのPRキャラクターで、シロウサギの妖精『マイナちゃん』が登場すると子どもたちに囲まれ、多くの方が記念撮影されるなど一緒に楽しんでいました。

フリーマーケット会場は開店と同時に多くの方が訪れて、思い思いに品定めをする姿があり、売店では焼きそばやポップコーン、お弁当や地元野菜などが販売されていました。ステージでは大正中学校吹奏楽部の演奏や地域のスクールによる発表もあり、盛り上がりを見せていました。

今回初めてグッズ配布にも挑戦しました。当院公式キャラクターのキラリちゃんをプリントしたエコバッグです。イベント終了前に品切れとなりました。地域みなさんに横浜医療センターがより身近に感じていただけるような企画をこれからも考えていきたいと思います。



松栄会の石井会長（右）と

市民公開医療講座のお知らせ

「あなたのための乳がんセミナー ～検診から治療まで～」

日時：2025年1月9日（木） 14：30～16：00  
 場所：戸塚区役所3階 多目的スペース 先着100名  
 講師：木村 安希（当院乳腺外科医師）



<申し込み期間>  
 2024年12月11日（水）～  
 2025年1月6日（月）

QRコードから  
 お申し込みください。





## YMC NEWS

# 災害訓練を実施しました

9月28日(土)に、災害訓練を実施しました。年に1度開催されているもので、今年は「首都直下型地震発生翌日」の想定としました。被災内容や院内の状況の確認、多数の傷病者受入を想定した病床の確保、様々な制限の中でどのように業務を継続するか、などの対応を行いました。また、院内で火災が発生したという想定もあり、通報や初期消火、避難などの訓練も同時並行で行いました。

院長が災害対策本部長を務め、対策本部を設置します。入院中の患者さんへの対応、救急患者の受け入れ、通信や電気などのインフラ(産業基盤)状況の確認などに分かれて対応します。



救急患者さんについては、トリアージエリアで重症度を判定し、赤(重症)、黄色(中等症)、緑(軽症)の各エリアへ誘導を行う訓練も実施しました。

災害拠点病院は、災害発生時に災害医療を行う地域の医療機関を支援するという重要な役割があります。そのために、一定の指定要件に沿って非常事態に備えられた運営体制・施設となっており、被災によって機能不全に陥らないようにすることが求められています。当院の職員やボランティアの方々に加え戸塚区・泉区役所や同区内の他病院の職員にも多数ご参加いただきました。



今回実施した訓練の課題は、災害発生時に迷いなく動けるよう研鑽を続けていきます。





YMC NEWS

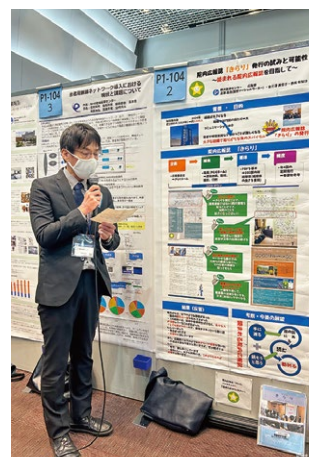
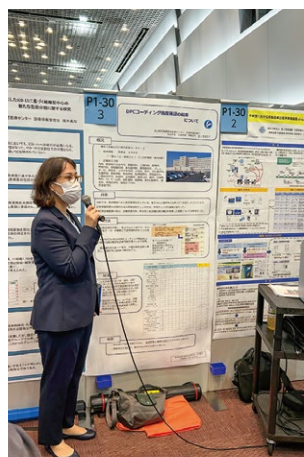
国立病院総合医学会に参加しました

10月18日～19日にグランキューブ大阪で行われた国立病院総合医学会に出席しました。この学会は国立病院機構 (NHO)、国立高度専門医療研究センター (NC) の職員が一堂に会するもので、当院からは口演、シンポジストなど様々な形で多くの職員が参加し、知見と交流を深めてきました。人生100年時代の健康・医療の在り方や医療デジタルトランスフォーメーション (DX) の運用など、これからの医療に向けて多くの発表、口演がありました。



医師、看護師のみならず、薬剤師や臨床検査技師等のコメディカル（医師・歯科医師以外の診療に関わる医療従事者）、事務職など多職種が参加するこの学会では、実にさまざまな発表が行われました。他院の取り組みを見聞きして、自院に持ち帰り、議論をしてより発展させた形で取り入れることもあります。

変化が激しく、先が読めない時代に適応するために多職種の視点から解決に向けた議論がなされています。医療の質を確保しながら、より良い医療を提供するためにこれからも研鑽してまいります。



↑上：当院職員のポスター発表  
←左：ポスター発表は大盛況。多くの質問が投げかけられます

マイナンバーカードの健康保険証利用登録はお済みですか？

2024年12月2日に現行の健康保険証の新規発行が終了し、マイナンバーカードの利用を基本とする仕組みに移行します。もしものときにも、マイナンバーカードがあればこれまでの医療情報などが正確に伝わるので、適切な処置につながります。病院でも、薬局でも、マイナンバーカードを利用しましょう。

〈マイナ保険証を使用するメリット〉

- ・ 病院での受付が簡単で、限度額以上の支払いが不要になる
- ・ 医療機関で薬の情報を確認してもらえる
- ・ マイナポータルで診療情報や医療費控除の申請ができる
- ・ 引越しや転職してもそのまま使える など



## リハビリ通信

# 転倒を予防して健康寿命を延ばそう

### ●健康寿命と転倒の実情

健康寿命は、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。男性は72.7歳、女性は75.4歳。健康寿命のあとの不健康な期間は、男性では8.7年、女性では12.1年です。

また65歳以上の高齢者3人に1人は1年間に1回以上転倒し、さらに転倒した人のうち5%が骨折すると言われています。骨折は身体機能を低下させ、介護が必要な人の全体の13%は転倒・骨折が要因となっています。

転倒を予防し、不健康な期間、男性では8.7年、女性では12.1年をできるだけ短くして、健康寿命をのばしていきましょう！

### ●自分が転倒しやすいか確認しよう

転倒リスクの評価	はい	いいえ
過去1年間に転んだことがある	5点	0点
歩く速度が遅くなったと思う	2点	0点
杖を使っている	2点	0点
背中が丸くなってきた	2点	0点
毎日お薬を5種類以上飲んでいる	2点	0点
<b>合計点数6点以上で転倒しやすい！</b>	<b>合計</b>	<b>点</b>

椅子に坐り立上がり5回を12秒以内にできれば脚の機能が保たれています



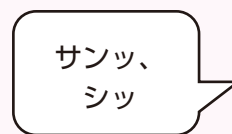
### ●転倒を予防しよう

1. 椅子に坐る



2. できる範囲で背を伸ばす！

3. 交互に膝を伸ばす！



1. 立って椅子につかまる

2. 出来る範囲で背筋を伸ばす

3. 踵をあげる！



## 病診連携施設紹介

## 戸塚ヒロ眼科

診療科：眼科 院長 佐久間 浩史



戸塚ヒロ眼科は、横浜市営地下鉄踊場駅から徒歩5分ほどの所に2006（平成18）年に開業し、2024（令和6）年で19年目を迎えました。1階はコンビニエンスストア、2階は内科、3階に眼科である当院と耳鼻科、4階が歯科という構成のメディカルビルの中にあります。眼前に大きなマンションが並び、近所には小中学校などの教育機関が多く、ご家族で足をお運び頂くことの多い眼科です。

院長は眼科専門医で、大学病院を始めとする複数の医療機関での豊富な経験を活かし様々な患者様に対応できるよう心を砕いています。

白内障や緑内障、糖尿病網膜症、ドライアイ、アレルギー性結膜炎など様々な疾患の診断と治療を行っています。中でも特に力を入れているのは小児の近視・弱視の治療で、4人視能訓練士が常駐し専門的な検査を行う体制を整えている他、保険外の（保険適用でない）近視の診療（オルソケラトロジーやレッドライト療法など）にも積極的に取り組んでいます。

また、成人の方は目の奥に疾患を抱えている場合が多く、網膜や眼底の状態をより細かく精密にとらえる眼底三次元画像解析（OCT）や超広角走査型レーザー検眼鏡（オプトス）など先進的な検査機器を揃え、客観的なデータに基づく診断を行っています。

白内障の手術の他、緊急の対応が必要な患者様に「横浜医療センター」をご紹介することが多く、大変お世話になっております。基幹病院が支えて下さることで、クリニックとして安心して診療を行うことができ感謝しております。

当院が最も大切にしていることは患者様とのコミュニケーションで、スタッフ一同ご挨拶を欠かさないようにしております。院長もまた「患者様に寄り添い一緒に歩き、一緒に眼を守っていくことが目標」という信条を掲げ、わかりやすい説明を心がけています。

今後も乳幼児からご高齢の方まで幅広い世代の患者様に寄り添い、地域に根差した親しみやすい眼科であることを目標に努力して参ります。



Totsuka HIRO Eye Clinic

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢1-10-46  
踊場メディカルセンター3F

TEL：045-869-1311

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	○	○	○	—	○	○	—	—
14:30～18:00	○	○	○	—	○	—	—	—

※休診日：日曜・木曜・土曜午後・祝日

## 《診療のご案内》

\* 当院は完全紹介制です。初診の場合はかかりつけ医等からの紹介状が必要です \*

・ 初診受付時間は、午前8:30~10:30です。下記診療科以外は予約なしで受診できます。

＜初診時予約が必要な診療科＞

精神科、乳腺外科、緩和ケア内科、産科、呼吸器内科、脳神経内科

※ 当院で分娩を希望される方で、他院に受診が無い方は予約・紹介状なしでも受診できます※

・ 診察の予約や、CT・MRI等の検査予約は、かかりつけ医にご依頼ください。

(患者さんからの予約は受け付けておりません)

・ あらかじめ当院ホームページ等で休診情報、外来担当医表をご確認ください。



## 《交通アクセス》

### 【路線バスでお越しの場合】

・ 戸塚駅から

戸塚駅西口バスセンター2番のりばから  
神奈中バス戸50、戸51、戸52、戸55、  
戸56系統に乗車

・ 大船駅から

大船駅西口5番のりばから神奈中バス  
船21、船22、船24、船25系統に乗車

・ 藤沢駅から

藤沢駅北口5番のりばから  
神奈中バス藤54、藤55系統に乗車

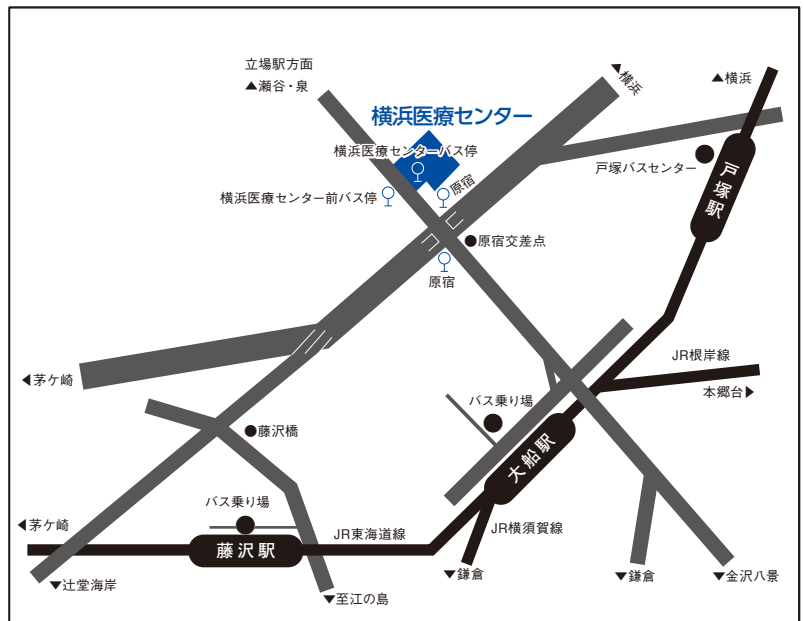
・ 立場駅から

立場バスターミナル4番のりばから  
神奈中バス船21、船22系統に乗車

※ いずれも「横浜医療センター前」または  
「横浜医療センター」下車

※ 大船駅東口から小型乗合バス「こすずめ号」で  
「横浜医療センター」下車 (平日昼のみ)

\* 横浜市戸塚区原宿3-60-2



### 【車でお越しの場合】

国道1号・原宿交差点から環状四号線を北方向に進みすぐ。

瀬谷・泉方面からは環状四号線を大船方面に進み、原宿交差点手前。駐車場555台(有料)あり。



## 《病院理念》

最適な医療を提供し、地域に信頼され共に発展する基幹病院として社会に貢献します。

＜基本方針＞

1. 患者さんの人権を尊重し、信頼関係に基づいた、安全で良質な医療を提供します
2. 地域の医療機関と密接に連携し、地域完結型医療の中心的役割を担います
3. 職員の教育研修の充実を図り、能力向上と人材育成に努めます
4. 臨床研究に積極的に取り組み、医療水準の向上に貢献します
5. 職員が自らの成長を実感できる、働きがいとなる病院をつくります
6. 健全な病院経営に務め、安定して持続可能な運営を目指します



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター はらじゅくかわら版



<https://yokohama.hosp.go.jp/>



発行日：2024年11月(第85号)

発行：横浜市戸塚区原宿3-60-2

横浜医療センター広報委員会

発行責任者：宇治原 誠

横浜医療センター病院ブログ

<https://yokohama.hosp.go.jp/blog/index.html>

